

佐久穂町の魅力ポイント ■面積 ●188.2km² ■人口 約1.0万人 ■指定地域 過疎、振興山村等

○地理的特徴

長野県の東部に位置し、西は北八ヶ岳や八千穂高原、東は茂来山や古谷溪谷を望み、町の中心を南北に千曲川の清流が流れる自然豊かな町。

町の約8割が森林と林野率が高く、標高800mの高冷地にあるため、一年を通して日照時間が長く、少雨で寒暖差が大きい。

○農業の多様性

水稻、野菜（高原野菜・有機野菜）、花卉（アルストロメリア・カーネーション等）、果樹（プルーン・りんご等）、そば、酪農（酪農・養豚・養鶏）など多種多様な農業が営まれている。

特にプルーンは日本一のプルーン産地である長野県においてその中心地域となっており、特産品としてブランド化が進められている。

○八千穂高原の植物

北八ヶ岳東麓に広がる高原で、日本三大原生林の一つに数えられる深い原生林のなかにいくつもの天然湖が点在し、四季折々の美しい風景や、太古の昔を彷彿とさせる神秘的な風情を繰り広げている。



佐久穂町の課題

■ 政策分野 農業振興

■ プルーンのブランド化

- 都内でのマルシェやカルチャー教室など様々な取組を行ってきたが、町が出荷調整やとりまとめを担い、町主導でブランド化を進めていることから、事務的負担を軽減して上手く取り組む方法を模索している。

■ 果樹農業研修制度

- 地域おこし協力隊制度を活用して、収入を確保しながら技術の習得を目指す町独自の研修制度を運用しており、そのトレーニングファームの生産設備の整備について既存の補助金を活用しているものの多額の費用を要している。

■ 経年による施設の老朽化

- 農業用水の配管や堆肥を活用する土づくりセンターなど、整備から年数が経過し、漏水や機械設備の機能低下が顕著であり更新時期に差し掛かっている。



トレーニングファームの生産設備
(りんご栽培のためのトールスピンドル)

応援隊の活動報告

■ 情報提供

- 各種課題に活用可能な支援制度について情報提供。

■ 今後の取組

- 土づくりセンターについて、施設・設備更新のハード面のみならず、良質な堆肥製造や町内での有効活用のための検討会議などのソフト面での関わりを通じて町が目指す環境保全型、循環型農業の推進に寄与する。



土づくりセンターの内景